

小規模企業景気動向調査 [2022年7月期調査]

～感染急拡大による需要低迷、コスト増の影響による採算・資金繰りに苦しむ小規模企業景況

＜産業全体＞ 感染急拡大による需要低迷、コスト増の影響による採算・資金繰りに苦しむ小規模企業景況

7月期の産業全体の業況は、売上額DIが大幅に悪化、採算・資金繰り・業況DIは小幅な悪化となった。コロナ第7波の急拡大により、5月期、6月期と持ち直しの動きが見られた売上DIが悪化に転じた。また、原油及び原材料高騰によるコスト負担に加え、急激な円安等により採算の悪化につながっているものとみられる。これらの需要の低迷や採算の悪化が、資金繰りにも影響を与え、借り換えやリスクで対応している、などのコメントが目立ち始めている。

	6月	7月	前月比
売上額	▲3.6	▲100	▲6.4
採算	▲48.4	▲51.4	▲3.0
資金繰り	▲37.4	▲400	▲2.6
業況	▲34.3	▲38.5	▲4.2

＜製造業＞ 一部で価格転嫁が進むも、限定的であり、採算・資金繰りに苦しむ製造業

製造業は、売上額DIが小幅に悪化、採算DIがわずかに改善、資金繰り・業況DIが小幅な改善となった。食料品関連は、原材料高騰により採算DIが低水準で推移しているが、価格や容量に転嫁する対策が進んでいるとのコメントがあった。繊維関連は、売上DIが10pt超と大幅に悪化したが、採算・資金繰り・業況DIは小幅な改善が見られた。機械・金属関連は、半導体関係が全体を牽引し、全DIで改善がみられた。一方、労働力不足から受注制限する、などのコメントがあった。

	6月	7月	前月比
売上額	▲3.5	▲56	▲21
採算	▲55.3	▲54.8	0.5
資金繰り	▲428	▲406	22
業況	▲424	▲408	1.6

＜建設業＞ 資材不足による着工延期が、売上に影響を及ぼし始めた建設業

建設業は、売上額・業況DIが大幅に悪化、資金繰り・採算・業況DIは全産業において最も低水準で推移している。官公需、民間工事の受注が堅調である一方、建築資材の入荷遅れが継続しているため、着工できず売上につながらない。価格転嫁対策が追いつかないことによる採算悪化、工期遅延による資金繰り悪化も深刻である。資材入荷後に短期間で労働力を集中させる時期が発生し、職人の人手不足が課題であるとのコメントがあった。

	6月	7月	前月比
売上額	▲1.7	▲102	▲8.5
採算	▲57.1	▲602	▲3.1
資金繰り	▲43.7	▲486	▲4.9
業況	▲34.0	▲421	▲8.1

＜小売業＞ 商品の値上げ、感染症の拡大、猛暑など、業種ごとに明暗を分けた小売業

小売業は、売上額・採算DIが小幅に悪化し、資金繰りDIがわずかに改善、業況DIが小幅に改善した。食料品関連は、売上額DIが悪化に転じた。商品の値上げに対し、買い控えの傾向がみられるとのコメントが目立った。衣料品関連は、売上DIが悪化に転じた。コロナによる外出自粛から来店客が減少したとのコメントがあった。一方、耐久消費財関連は、売上DIが大幅に改善し、猛暑によるエアコンの需要が大きく伸びたとのコメントが見て取れた。

	6月	7月	前月比
売上額	▲9.9	▲120	▲2.1
採算	▲48.7	▲50.3	▲1.6
資金繰り	▲40.6	▲400	0.6
業況	▲42.1	▲40.6	1.5

＜サービス業＞ 感染症の急拡大により、回復基調から一転、大幅な業況悪化に苦しむサービス業

サービス業は、売上・業況DIが10pt超の大幅悪化、採算・資金繰りDIが大幅に悪化した。旅館関連は、5月期、6月期と、売上DIの大幅な改善がみられたが、7月期は20pt超の急激な悪化となり、全業種の中で最大の悪化幅を記録した。クリーニング関連も、外出控えから、売上DIが10pt超の大幅悪化となった。理・美容は、売上DIは小幅の悪化にとどまるものの、エステ関連では、売上の大幅な減少で廃業したとのコメントがあり、一部の業種への影響が大きかった。

	6月	7月	前月比
売上額	0.6	▲123	▲12.9
採算	▲324	▲402	▲7.8
資金繰り	▲226	▲308	▲82
業況	▲18.6	▲30.5	▲11.9

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2022年7月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。